

2024年2月25日（日）第二礼拝「十戒を与えられた目的」申命記5章22節

イスラエルの民は、家の門柱とかもいに小羊の血をつけることで災いに遭わずエジプトから救い出されました。これが過越しです。その五十日後シナイ山で神様は十戒を二枚の石の板に書いてモーセに授けられました。新約ではイエス様の十字架(過越しの祭り)から五十日目に聖霊が与えられました。

第一番目、二つの板です。一枚目の板には一～四戒の「神様と神様の民との関係」について書かれました。「あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない/あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。それらを拜ってはならない/あなたは、あなたの神、主の御名をみだりに唱えてはならない/安息日を守って、これを聖なる日とせよ」二枚目の板は五～十戒の「人同士の関係」について書かれました。「あなたの父と母を敬え/殺してはならない/姦淫してはならない/盗んではならない/あなたの隣人に対し、偽証してはならない/あなたの隣人の妻を欲しがってはならない」十戒は神様の命令であり、神の国の憲法です。十戒を守り行うなら祝福され、従わないなら呪われます。残念ながら、現在多くの教会が十戒を無視することで背教が起り、宗教統合へと向かっています。またその十戒を破るように教える不法の人(滅びの子、反キリスト)が主の日に現れると聖書は言っています。

第二番目、父の心と子の心です。父なる神様の心は十戒です。御子イエス様の心は十戒に従順し、死ぬまで守り通すものです。旧約では十戒を与え、新約では聖霊様を与えられた父なる神様は良いお方で愛に満ちています。神様は十戒を通して私たちが幸せになることを願っておられるのです。その父の心を知り、命がけで従順するのが御子イエス様の心です。父の心と子の心は十戒の中で成就されています。「父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。」(マラキ4:6)同様に私たちも神様の命令に最後まで従順することが大切です。

第三番目、私たちは無能力です。神様の十戒と律法は霊的なもの(良いもの)であり、私たちは罪ある者なので本来律法を守ることができません。パウロの言うように、自分でしたいと思う善を行わないで、かえって、したくない悪を行っているのが私たちの現状です(ローマ7:14~15)。私たちには神様の御言葉を行う力や善を行う力が全くないということを認め、自分の心の貧しさを知り、主の助けが必要だと認める時、神様に感謝する心が与えられ、柔和な者へと変えられていくのです。「心の貧しいものは幸いです。神の国はその人の者だからです。…」(マタイ5:3~12)では、律法を守り行うにはどうしたらいいのでしょうか?答えは聖霊様です。聖霊様は父の御霊、御子の御霊であり、私たちに父の心と子の心を悟らせてくださいます。聖霊様によって私たちの心の板に律法が書き記され、完成して下さるのです。また、聖霊様が臨む時、いのちの御霊の原理が罪と死の原理から私たちを解放して下さいます。律法を守るならいのち(祝福)ですが、律法を捨てるなら背教が起り、不法の人の到来となります。ですから、私たちはいつも御霊によって歩み、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制の実を結ぶ者となっていきましょう。アーメン!